

令和8年度 埼玉県「性に関する指導」指導者研修会

学習指導要領に基づく
性に関する指導の考え方と進め方
—教科等横断的な視点を加えて—

埼玉大学

森 田 哲 史

- 1.【導 入】学習指導要領に基づく性に関する指導の考え方
- 2.【展開①】理論編 授業づくりと指導案作成
- 3.【展開②】実践編 動画視聴
- 4.【まとめ】教科横断的な視点からみる性に関する指導の進め方

本日のゴール

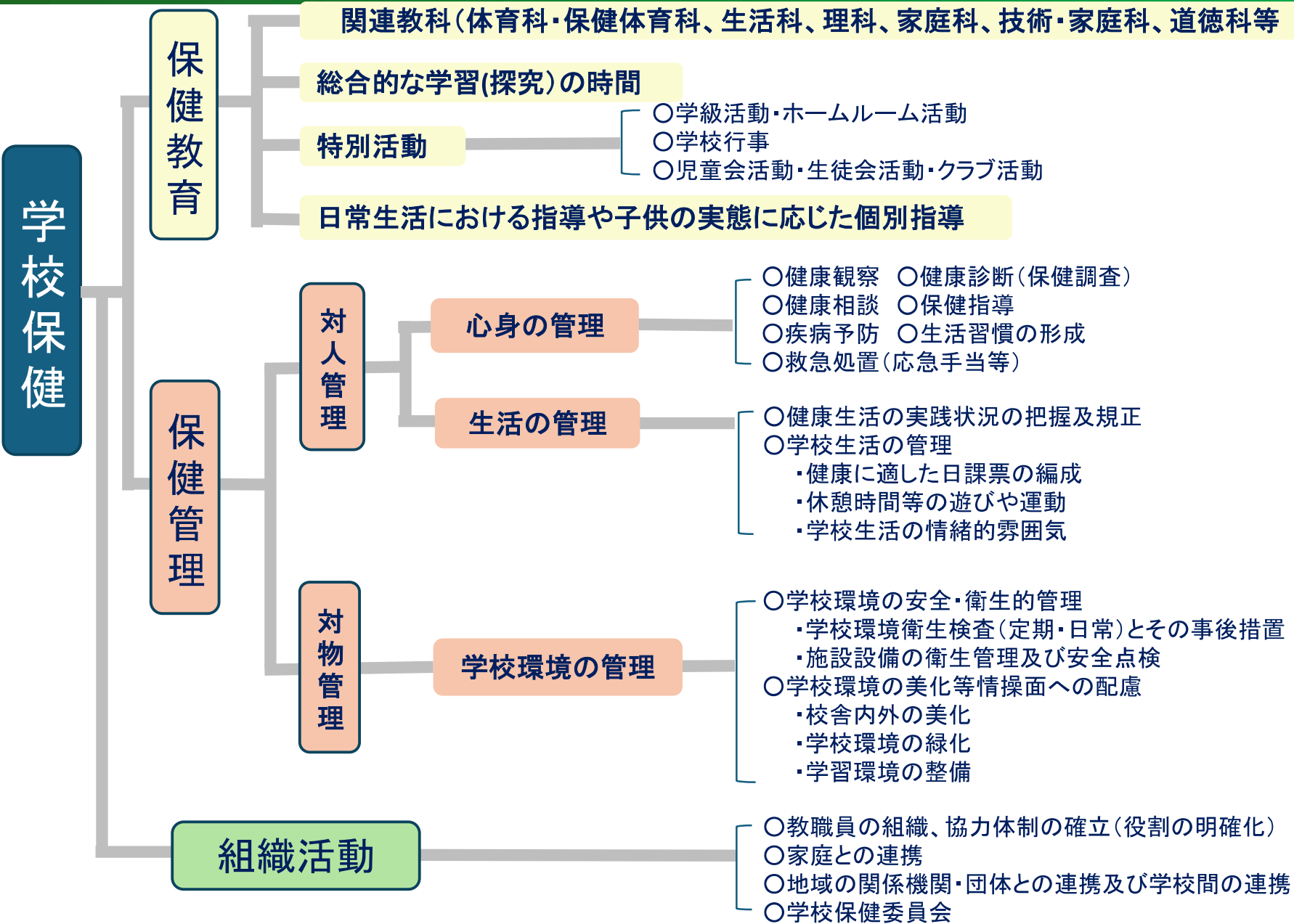
**学習指導要領に基づく
性に関する指導の考え方と進め方を知り、
自校での取組について考えよう**

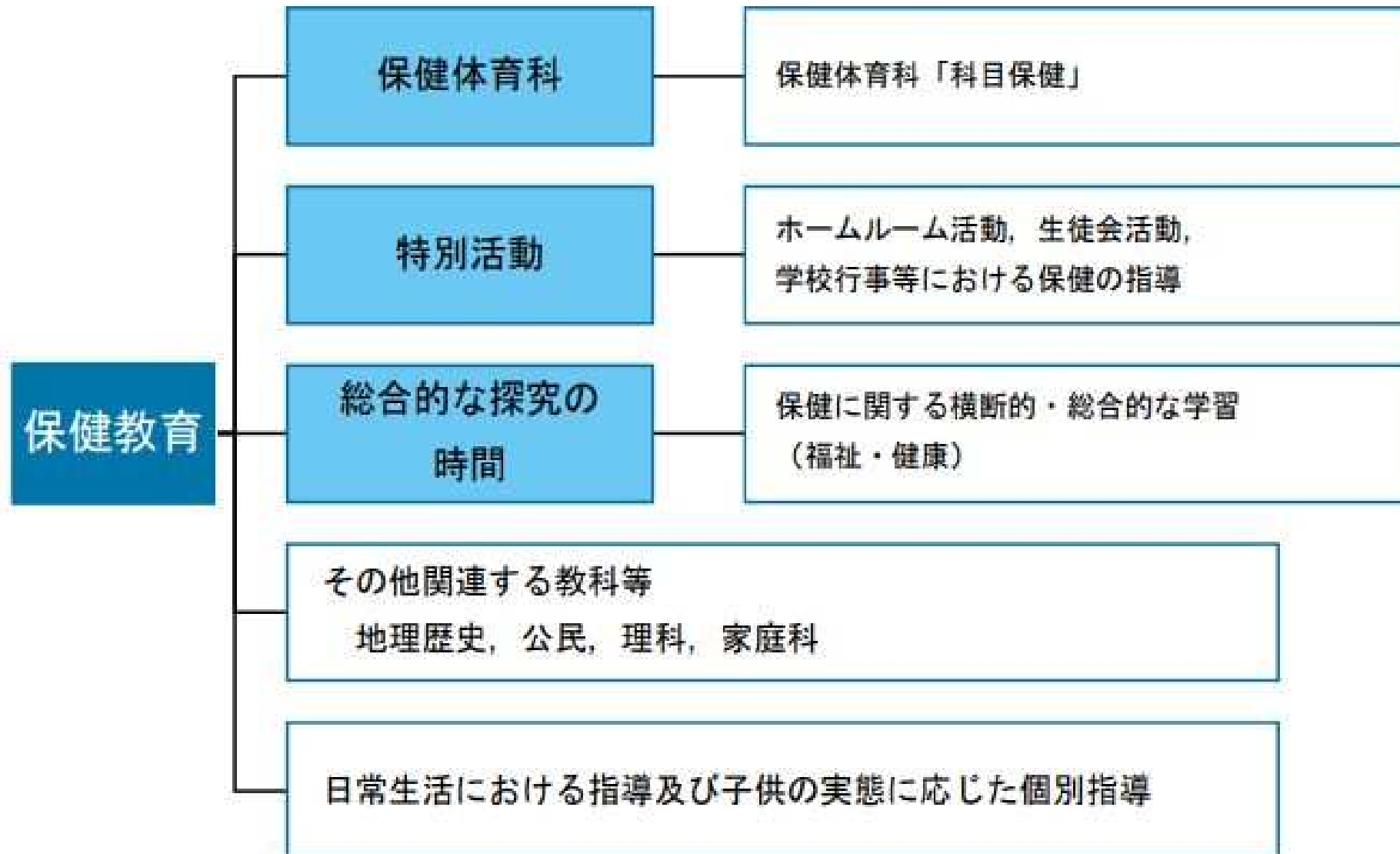
01

【導入】 学習指導要領に基づく 性に関する指導の考え方

(3) 健やかな体 (第1章第1の2の(3))

(3) 学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、**学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。**特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、**保健体育科、技術・家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。**また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて**健康・安全で活力ある生活を送るための基礎**が培われるよう配慮すること。





- 子供の健康に関しては、**性や薬物等に関する情報の入手が容易になる**など、子供たちを取り巻く環境が大きく変化している。また、食を取り巻く社会環境の変化により、栄養摂取の偏りや朝食欠食といった食習慣の乱れ等に起因する肥満や生活習慣病、食物アレルギー等の健康課題が見られる。さらに、東日本大震災や平成28年（2016年）熊本地震をはじめとする様々な自然災害の発生や、情報化やグローバル化等の社会の変化に伴い、**子供を取り巻く安全に関する環境も変化している**。こうした課題を乗り越えるためには、**必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行うことができる力**を子供たち一人一人に育むことが課題となっている。

○性に関する指導の留意点

学校における性に関する指導は、教育課程において実施されることから、**学習指導要領に基づいて**行うことが重要である。その指導は、児童生徒が**性に関して正しく理解し、適切に行動を取れる**ようにすることを目的に実施されており、体育科、保健体育科、特別活動をはじめとして、**学校教育活動全体を通じて**指導することが大切であり、現在の性に関する指導の基本的な考え方は、平成20年1月の中央教育審議会答申によるところが大きい。

- ・ 生徒の発達段階をふまえること
- ・ 学校全体で共通理解を図ること
- ・ 家庭・地域との連携を推進し保護者や地域の理解を得ること
- ・ **集団指導**と**個別指導**の連携を密にして効果的に行うこと



第4節 生徒の発達の支援

● 1 生徒の発達を支える指導の充実

(1) 学級経営、生徒の発達の支援（第1章第4の1の(1)）

(1) 学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行う **ガイダンス** と、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行う **カウンセリング** の双方により、生徒の発達を支援すること。

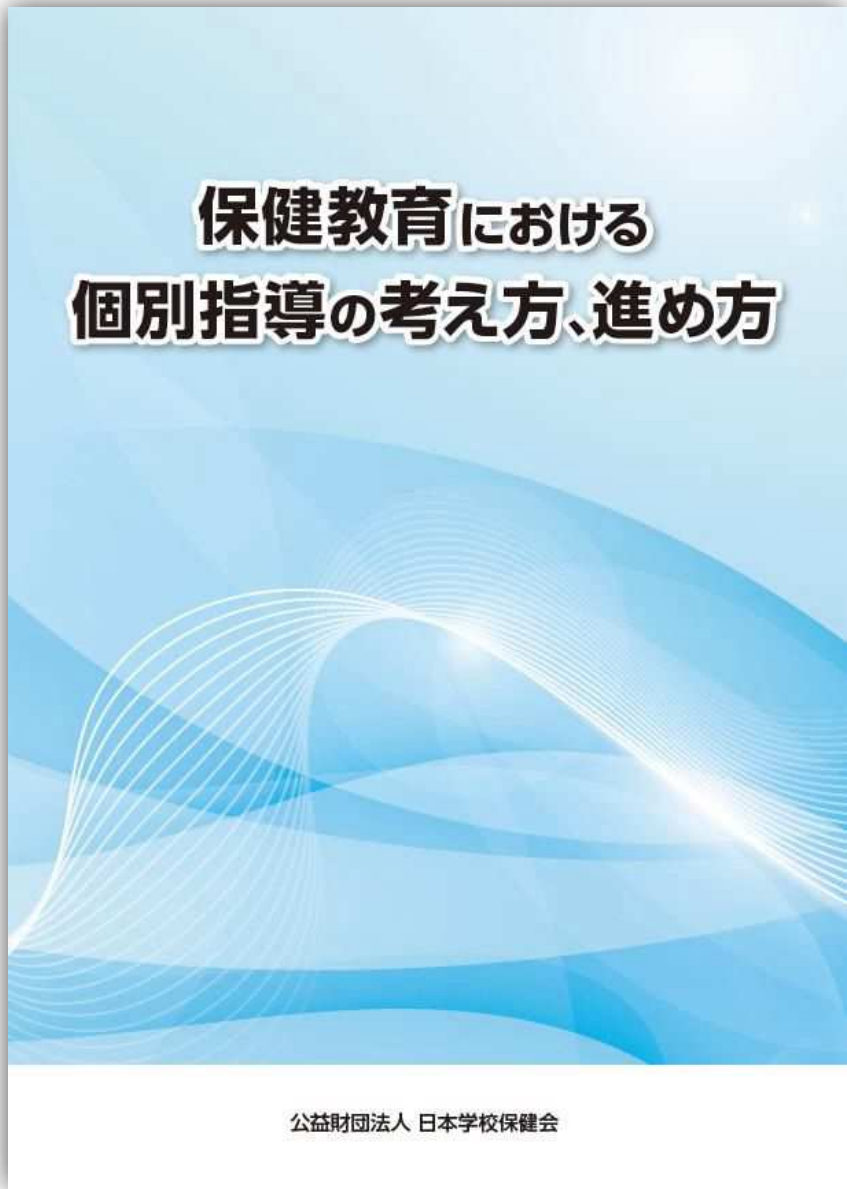
このため、生徒の発達の特性や教育活動の特性を踏まえて、あらかじめ適切な時期や機会を設定し、主に集団の場面で必要な指導や援助を行う **ガイダンス** と、個々の生徒が抱える課題を受け止めながら、その解決に向けて、主に個別の会話・面談や言葉がけを通して指導や援助を行う **カウンセリング** の双方により、生徒の発達を支援することが重要である。

集団
指導

全ての子供に共通に指導
(ガイダンス)

個別
指導

個々の子供が抱える課題に
向けた指導
(カウンセリング)



目次

まえがき

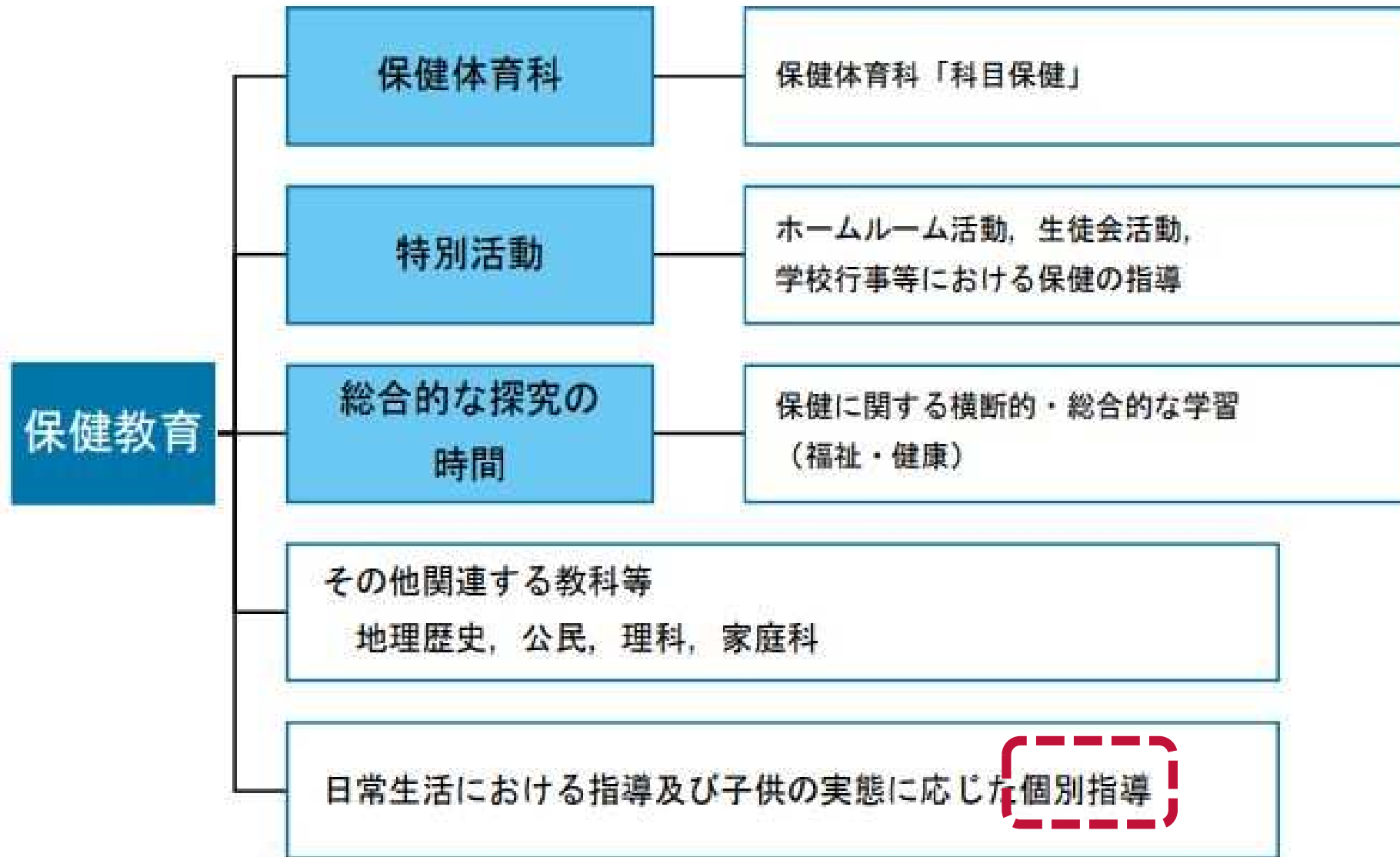
第1章 学習指導要領に基づく保健教育	1
1 ▶ 保健教育の考え方	1
(1) 保健教育の意義	1
(2) 保健教育のねらい	2
(3) 保健教育の体系	4
(4) 「令和の日本型学校教育」の趣旨を踏まえた保健教育の推進	4
2 ▶ 保健教育における個別指導	6
3 ▶ 個別指導の実施に当たって	6
第2章 具体的な健康課題に対応した個別指導例	7
1 ▶ 性について	7
指導例 ① 月経に伴う心身の不調を知り、周囲の人ができる支援や配慮を考える	7
指導例 ② 妊娠・出産について考える	15
指導例 ③ 「性感染症」の予防について考える	18
2 ▶ がんについて	24
指導例 がんについて理解を深める	24
3 ▶ 薬物乱用(大麻)について	30
指導例 薬物乱用(大麻)の防止と対処について考える	30
4 ▶ 心の健康について	36
指導例 精神疾患の予防と対処について考える	36
5 ▶ 防災について	42
指導例 豪雨災害に備え、命を守るためのマイ・タイムラインを作る	42

保健教育での個別指導とは、学習指導要領に基づく保健教育の着実な実施の下で、児童生徒一人一人の健康に関する興味や関心、発育・発達や保健の学習課題等を踏まえた個別の指導と言える。すなわち、一人一人の資質・能力を高めていくことを念頭に、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、児童生徒が自身の課題を解決できるようにするための指導である。

体育科・保健体育科、特別活動、総合的な学習（探究）の時間などの集団指導の内容や時期等を踏まえつつ、個別の児童生徒や任意の小集団を対象として意図的・計画的に取り組むもの。

具体的には、

- 集団指導の内容等に伴う配慮や充実のための補完的な学習
- 学習内容の習熟の程度に応じた発展的な学習
- 児童生徒が日々の生活において直面する可能性のある課題や興味・関心等に応じた学習



第12章

性に関する課題

留意点

児童生徒を取り巻く性に関する状況において、若年層のエイズ及び性感染症、人工妊娠中絶、性犯罪・性暴力、性の多様性など様々な課題が見られます。

これらは、生徒指導にも直結する課題であると言えます。性に関する課題への対応では、関連する法律などの理解や人権に配慮した丁寧な関わり、児童生徒が多様性を認め、自分と他人を尊重することが出来、安心して過ごせる環境や相談しやすい体制の整備、それらを支える「チーム学校」として組織づくりを進めることが求められます。

12.1.2 学校における性に関する指導

学校における性に関する指導は、学習指導要領に基づき、児童生徒が性について正しく理解し、適切に行動を取れるようにすることを目的に実施し、体育科、保健体育科や特別活動をはじめ、学校教育活動全体を通じて指導することとされています^[*130]。

指導に当たっては、

- 発達の段階を踏まえること
- 学校全体で共通理解を図ること
- 保護者の理解を得ること
- 事前に、集団で一律に指導（集団指導）する内容と、個々の児童生徒の状況等に応じ個別に指導（個別指導）する内容を区別しておくこと

などに留意し、計画性をもって実施することが求められています。また、地域や学校の実情に応じて、産婦人科医や助産師等の外部講師を活用することも考えられます。

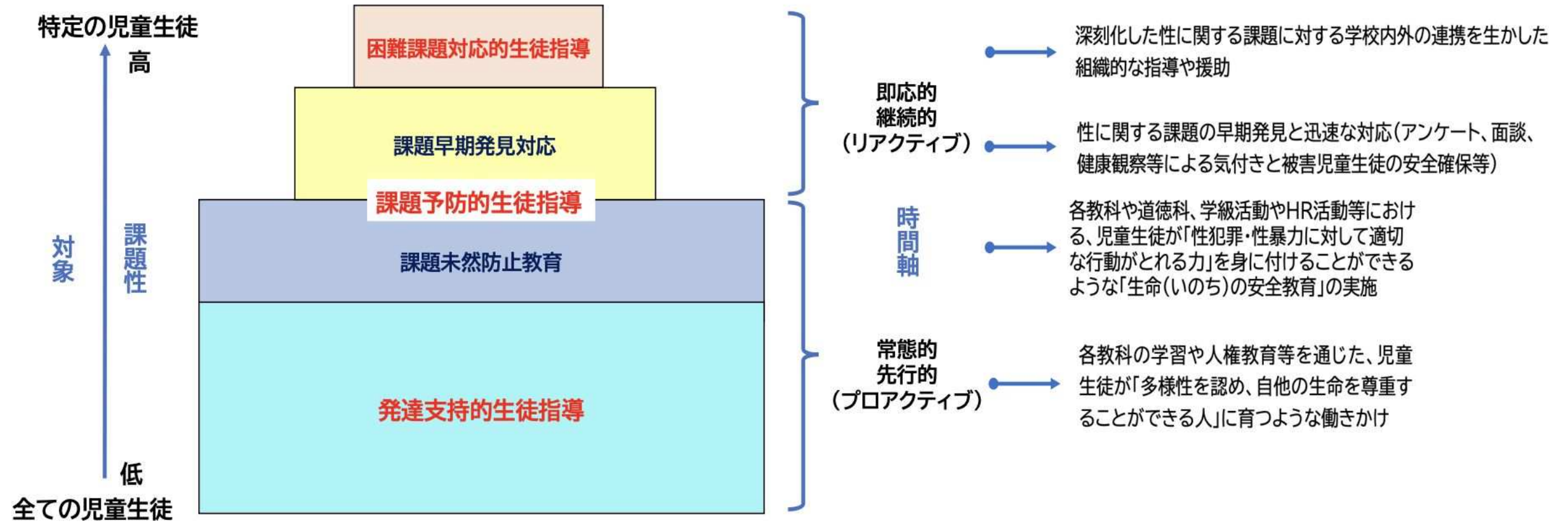


図 2 生徒指導の重層的支援構造

図 19 性犯罪・性暴力に関する生徒指導の重層的支援構造

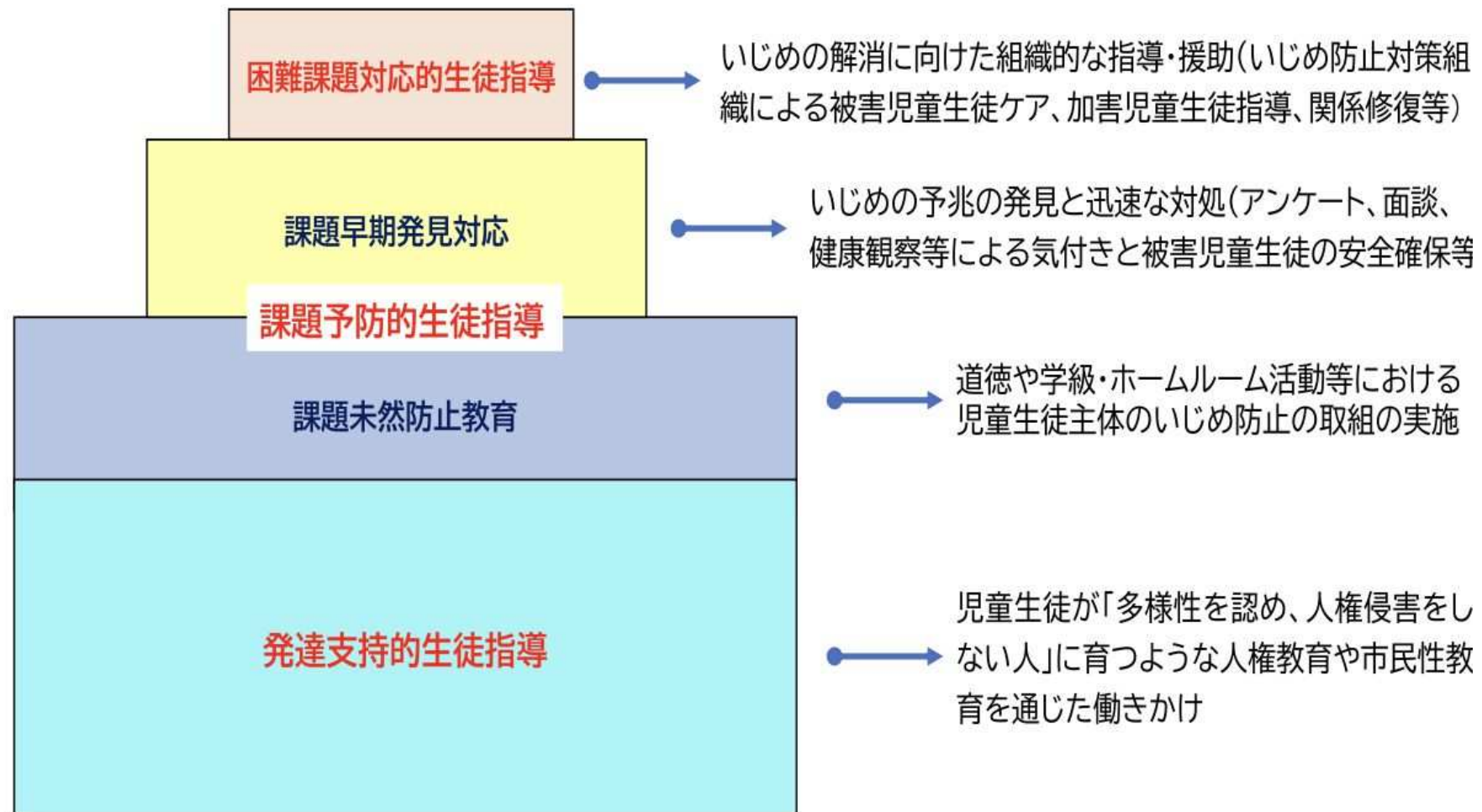


図9 いじめ対応の重層的支援構造

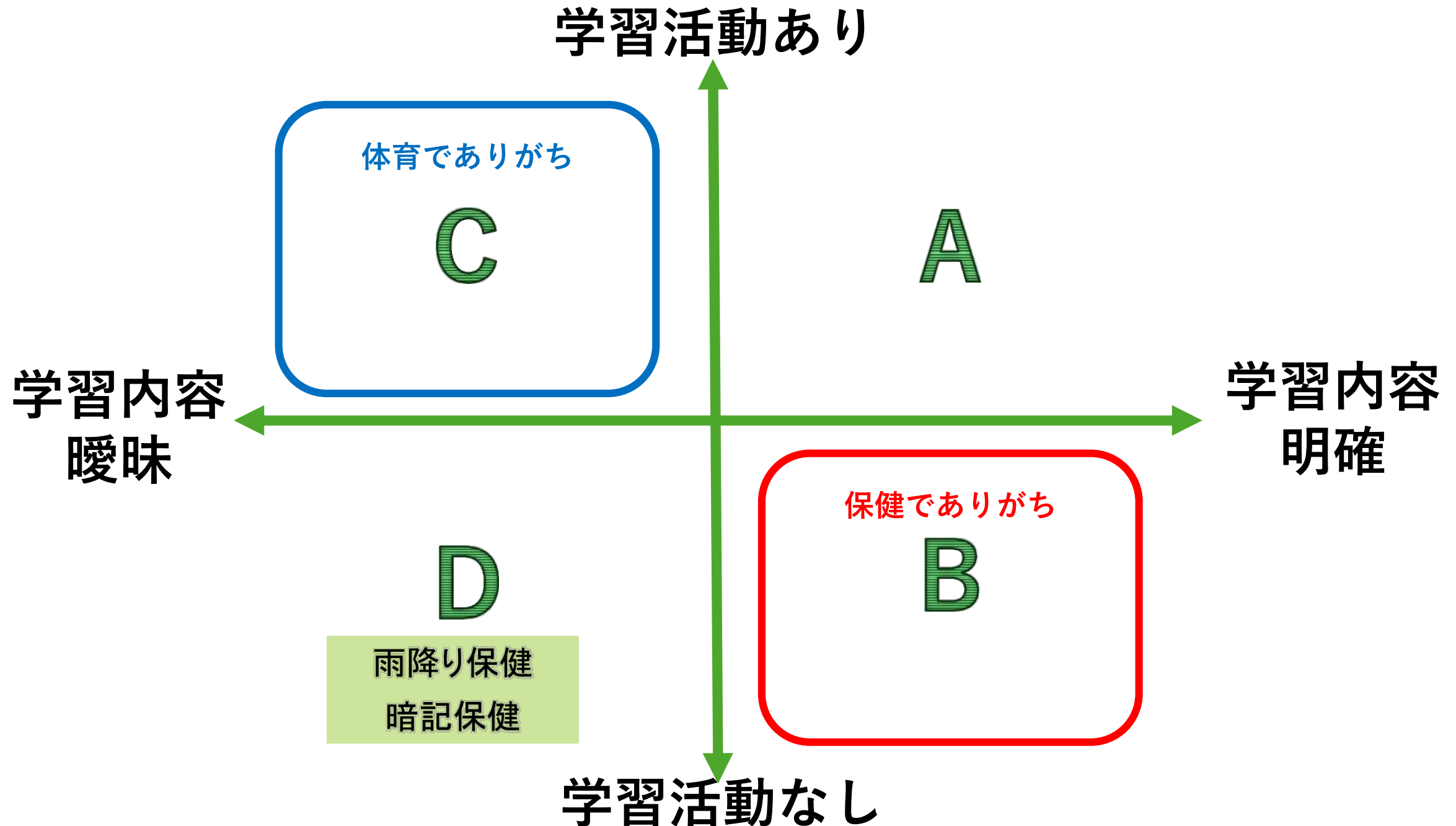
表3 「生命（いのち）の安全教育」の各段階におけるねらい

段 階	ね ら い
幼児期	幼児の発達段階に応じて自分と相手の体を大切にできるようにする。
小学校 (低・中学年)	自分と相手の体を大切にすることを身に付けることができるようにする。また、性暴力の被害に遭ったとき等に、適切に対応する力を身に付けることができるようにする。
小学校 (高学年)	自分と相手の心と体を大切にすることを理解し、よりよい人間関係を構築する態度を身に付けることができるようにする。また、性暴力の被害に遭ったとき等に適切に対応する力を身に付けることができるようにする。
中学校	性暴力に関する正しい知識をもち、性暴力が起きないようにするための考え方・態度を身に付けることができるようにする。また、性暴力が起きたとき等に適切に対応する力を身に付けることができるようにする。
高校	性暴力に関する現状を理解し、正しい知識を持つことができるようにする。また、性暴力が起きないようにするために自ら考え行動しようとする態度や、性暴力が起きたとき等に適切に対応する力を身に付けることができるようにする。
特別支援学校	障害の状態や特性及び発達の状態等に応じて、個別指導を受けた被害・加害児童生徒等が、性暴力について正しく理解し、適切に対応する力を身に付けることができるようにする。

【展開①】

理論編

授業づくりと指導案作成



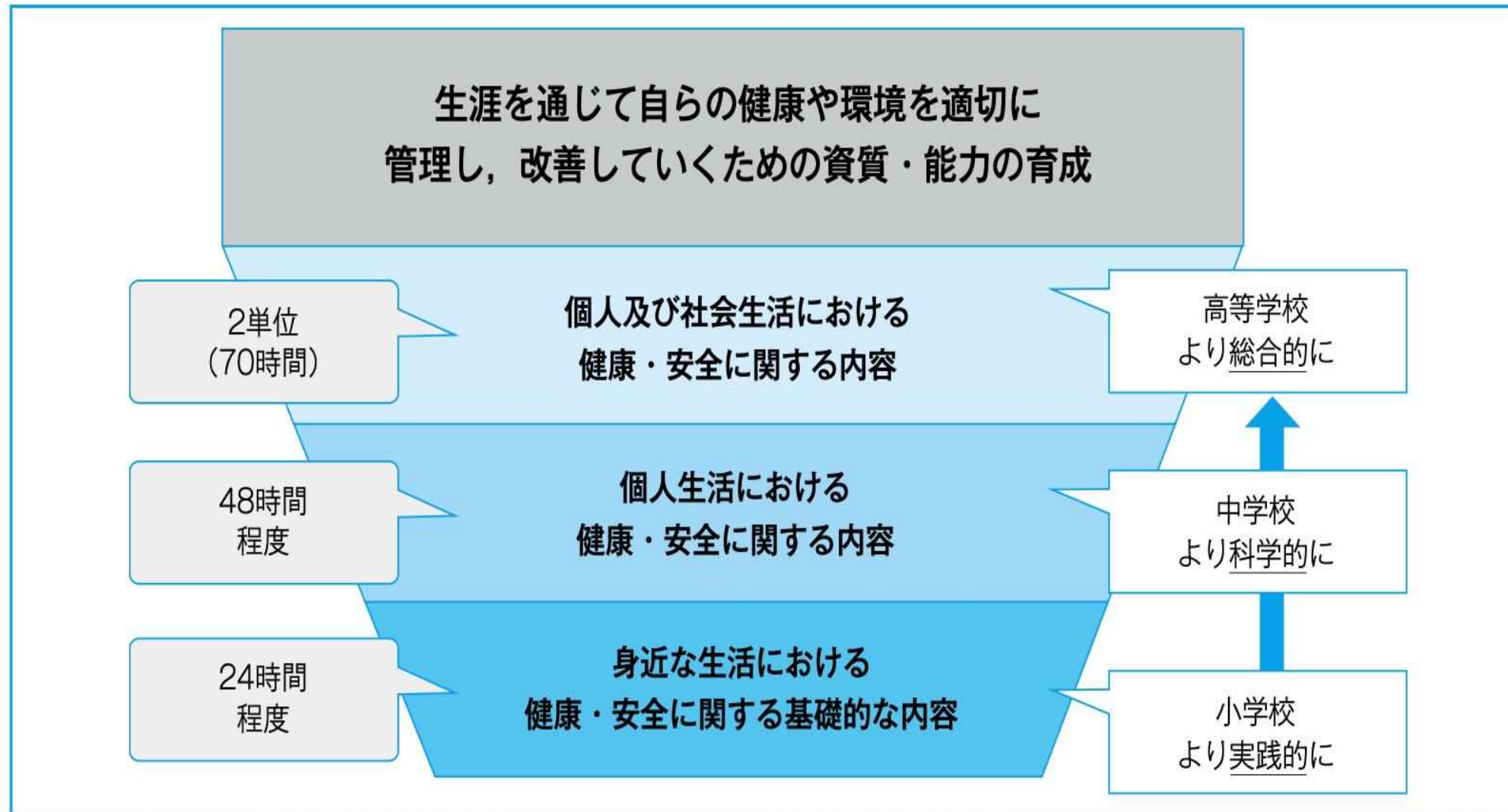


図1-3 保健における体系イメージ

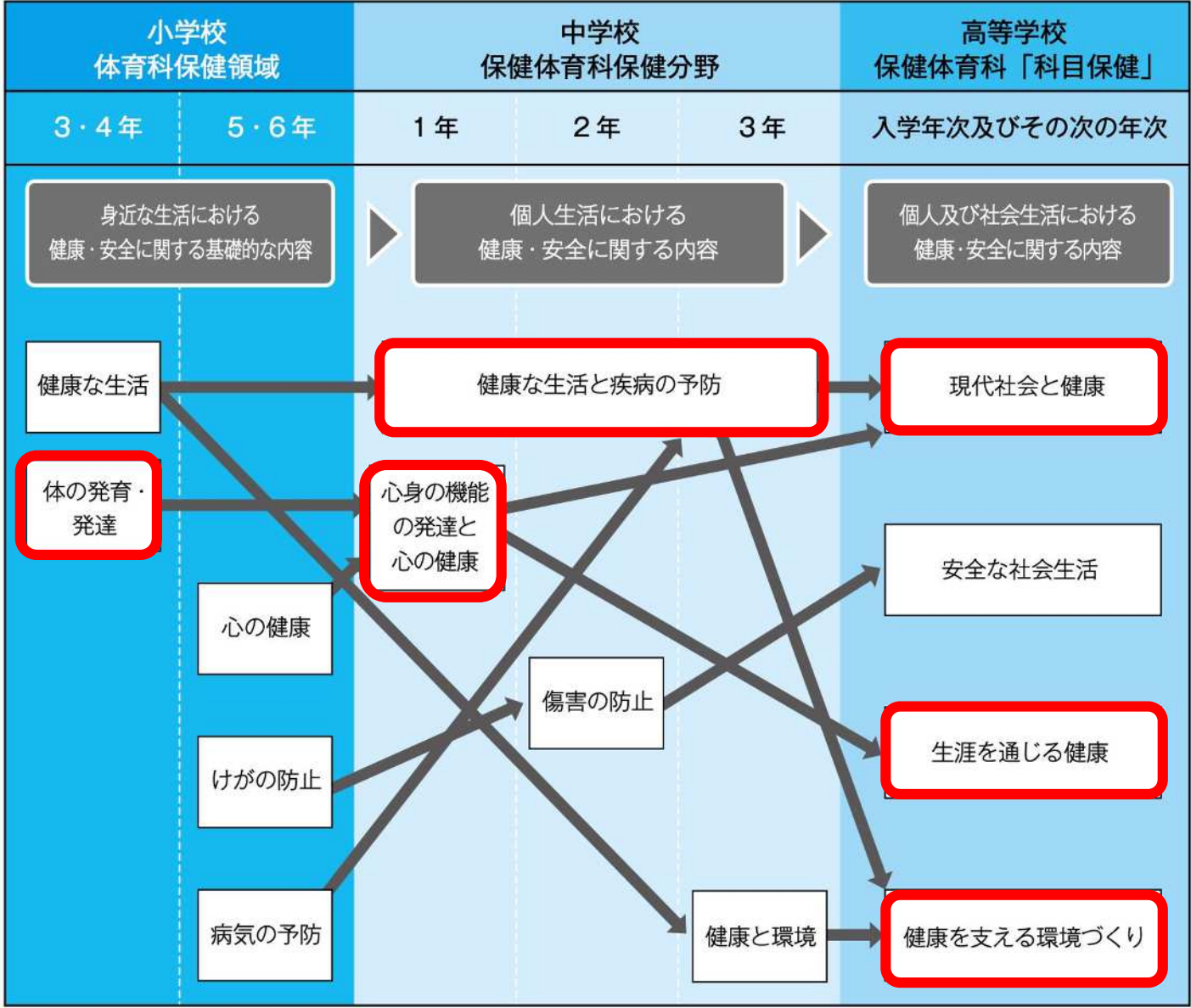
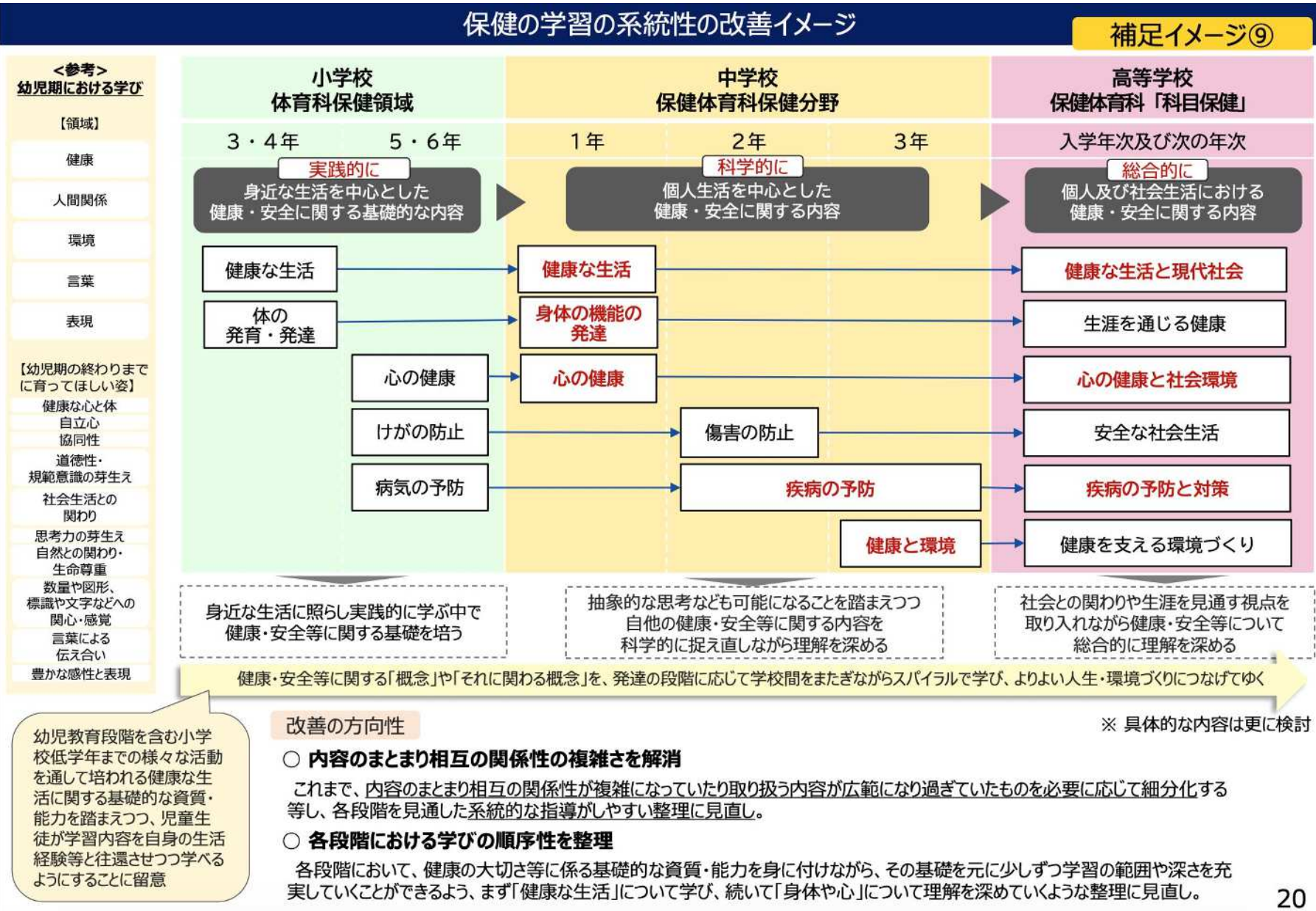


図1-4 保健における内容の系統性

小学校（保健領域）	中学校（保健分野）	高等学校（科目保健）
「健康な生活」（3年） ・健康な生活 ・1日の生活の仕方 ・身の回りの環境 「体の発育・発達」（4年） ・体の発育・発達 ・思春期の体の変化 ・体をよりよく発育・発達させるための生活 「心の健康」（5年） ・心の発達 ・心と体との密接な関係 ・不安や悩みへの対処 「けがの防止」（5年） ・交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止 ・けがの手当 「病気の予防」（6年） ・病気の起こり方 ・病原体が主な要因となって起こる病気の予防 ・生活行動が主な要因となって起こる病気の予防 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ・地域の様々な保健活動の取組	「健康な生活と疾病の予防」（1. 2. 3年） ・健康の成り立ちと疾病の発生要因 ・生活習慣と健康 ・生活習慣病などの予防 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ・感染症の予防 ・個人の健康を守る社会の取組 「心身の機能の発達と心の健康」（1年） ・身体機能の発達と個人差 ・生殖に関わる機能の成熟と適切な行動 ・精神機能の発達と自己形成 ・欲求やストレスへの対処と心の健康 「傷害の防止」（2年） ・交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因 ・交通事故などによる傷害の防止 ・自然災害による傷害の防止 ・応急手当 「健康と環境」（3年） ・身体对环境に対する適応能力至適範囲 ・飲料水や空気の衛生的管理 ・生活に伴う廃棄物の衛生的管理	「現代社会と健康」 ・健康の考え方 ・現代の感染症とその予防 ・生活習慣病などの予防と回復 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ・精神疾患の予防と回復 「安全な社会生活」 ・安全な社会づくり ・応急手当 「生涯を通じる健康」 ・生涯の各段階における健康 ・労働と健康 「健康を支える環境づくり」 ・環境と健康 ・食品と健康 ・保健・医療制度及び地域の保健医療機関 ・様々な保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加 （原則として、入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修）



幼児教育段階を含む小学校低学年までの様々な活動を通して培われる健康な生活に関する基礎的な資質・能力を踏まえつつ、児童生徒が学習内容を自身の生活経験等と往還させつつ学べるようにすることに留意

- 小学校 体育科（保健領域）
 - ・ 体の発育・発達（第4学年）
「思春期の体の変化」
- 中学校 保健体育科（保健分野）
 - ・ 心身の機能の発達と心の健康（第1学年）
「生殖に関わる機能の成熟と適切な行動」
 - ・ 感染症の予防（第3学年）
「エイズ及び性感染症の予防」
- 高等学校 保健体育科（科目保健）
 - ・ 現代の感染症とその予防
（エイズ及び性感染症の予防）
 - ・ 生涯の各段階の健康
（思春期と健康、結婚生活と健康）

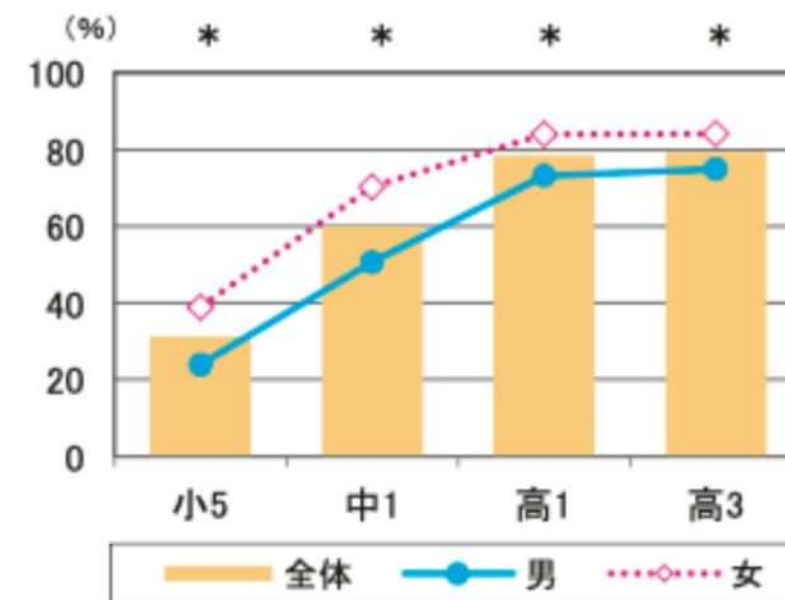
校種	学習指導要領解説の内容（キーワード）
小学校 (第4学年)	（イ）思春期の体の変化 思春期、体つきに変化、人によって違いがある、男子はがっしりした体つき、女子は丸みのある体つき、男女の特徴、初経、精通、変声、発毛、異性への関心、個人によって早い遅いがあるだれにでも起こる、大人の体に近づく現象
中学校 (第1学年)	（イ）生殖にかかわる機能の成熟 思春期、性腺刺激ホルモン、生殖器の発育、生殖機能が発達、男子では射精、女子では月経、妊娠、個人差、性衝動、異性の尊重、性情報への対処、性に関する適切な態度や行動の選択 ■受精・妊娠を取り扱う、妊娠の経過は取り扱わない、性衝動が生じる、異性への関心、異性の尊重、情報への適切な対処や行動の選択
中学校 (第3学年)	（オ）感染症の予防 エイズ及び性感染症の増加傾向、青少年の感染、疾病概念、感染経路。感染のリスクを軽減、エイズの病原体、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）、感染経路は性的接触、性的接触をしない、コンドームを使うことなどが有効 ■後天性免疫不全症候群（エイズ）及び性感染症について取り扱う。
高等学校	（イ）現代の感染症とその予防 エイズ及び性感染症、原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策
高等学校	（ア）生涯の各段階における健康 ⑦思春期と健康 思春期における心身の発達、性的成熟に伴う健康課題、自分の行動への責任感、異性を理解したり尊重したりする態度、性に関する情報等への適切な対処 ①結婚生活と健康 結婚生活、心身の発達や健康の保持増進、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題、健康課題には年齢や生活習慣などの関わり、家族計画の意義、人工妊娠中絶の心身への影響、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係、家族や周りの人からの支援、母子の健康診査の利用、保健・医療サービスの活用、妊娠のしやすさを含む男女それぞれの生殖に関わる機能 ■思春期と健康、結婚生活と健康、生殖に関する機能、責任感を涵養、異性を尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処

小・中・高校共通の保健の知識テスト（共通テスト）

問4. 思春期には、男子では初経、女子では精通という現象が起こる。

		(%)					
		n	正しい	まちがい	わからない	無回答	計
小5	男	1,935	42.4	23.9	33.0	0.7	100.0
	女	1,852	39.3	38.9	21.1	0.8	100.0
	全体	3,787	40.9	31.2	27.2	0.7	100.0
中1	男	2,200	24.8	50.6	23.5	1.0	100.0
	女	1,968	15.2	70.3	13.9	0.6	100.0
	全体	4,168	20.3	59.9	19.0	0.8	100.0
高1	男	1,910	14.5	73.1	12.3	0.2	100.0
	女	1,876	8.0	83.9	7.6	0.4	100.0
	全体	3,786	11.3	78.4	10.0	0.3	100.0
高3	男	1,482	14.5	74.8	10.0	0.7	100.0
	女	1,376	9.2	84.1	6.3	0.4	100.0
	全体	2,858	11.9	79.3	8.2	0.6	100.0

回答割合の男女差: χ^2 検定, df=3, * p<0.05



正答率の男女差 * p<0.05

正答率の学年間差: 男 p<0.05, 女 p<0.05

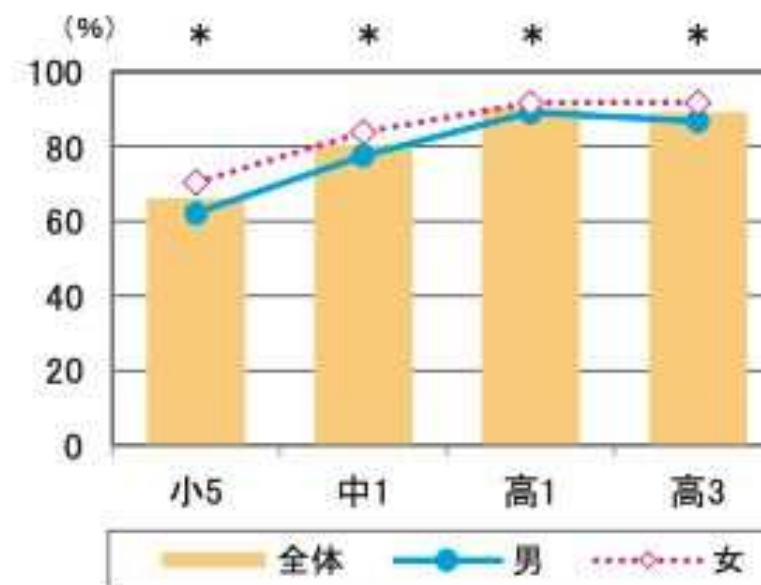
- ・ 正答率は、小5から高3にかけて、男では約7割、女では約8割とそれぞれ高くなった。
- ・ いずれの学年も、女が男に比して有意に正答率が高かった。

小・中・高校共通の保健の知識テスト（共通テスト）

問 24. 思春期の変声や発毛などの体の変化は、ホルモンの働き（作用）によって起こる。

			(%)				
		n	正しい	まちがい	わからない	無回答	計
小5	男	1,935	62.2	5.2	31.9	0.7	100.0
	女	1,852	70.4	3.3	25.8	0.5	100.0
	全体	3,787	66.2	4.3	28.9	0.6	100.0
中1	男	2,200	77.6	3.7	18.3	0.4	100.0
	女	1,968	83.8	2.0	13.7	0.5	100.0
	全体	4,168	80.5	2.9	16.1	0.5	100.0
高1	男	1,910	89.1	2.7	7.7	0.5	100.0
	女	1,876	91.7	1.3	7.0	0.0	100.0
	全体	3,786	90.4	2.0	7.4	0.2	100.0
高3	男	1,482	86.8	4.6	8.2	0.4	100.0
	女	1,376	91.8	2.3	5.7	0.3	100.0
	全体	2,858	89.2	3.5	7.0	0.3	100.0

回答割合の男女差: χ^2 検定, df=3, * p<0.05



正答率の男女差 * p<0.05

正答率の学年間差: 男 p<0.05, 女 p<0.05

- ・ 正答率は、男では小5から高1にかけて約9割と高くなったが、高3においてはやや低下した。女では小5から高3にかけて約9割と高くなった。
- ・ いずれの学年も、女が男に比して有意に正答率が高かった。

小学校4年の内容の知識テスト（小学校5年生対象）

(IV-2-3) 思春期の体の変化に悩む友達への適切なアドバイス

5年生女子のAさんは、胸がふくらみはじめて、なやんでいます。正しいアドバイスの組み合わせを一つ選んで、その番号の○をチェックしてください。



(ア) とてもはずかしいことだね。体の変化なんてなくなればいいね。



(イ) 大人の体に一步近づいたということだね。体を大切にしたいね。

1. (ア) も (イ) も正しい。
2. (ア) は正しい, (イ) は正しくない。
3. (ア) は正しくない, (イ) は正しい。
4. (ア) も (イ) も正しくない。

IV-2-3	n	1	2	3	4	無回答	差 [#]	計 (%)
男	1,935	7.9	3.1	85.7	1.1	2.2	*	100.0
女	1,852	4.1	2.4	92.0	0.5	1.0		100.0
全体	3,787	6.0	2.7	88.8	0.8	1.6		100.0

[#]男女差: χ^2 検定, $df=4$, $*p<0.05$

- ・この問題は、主として思考・判断を問うものとして設定したものであり、正答率は全体で約89%であった。
- ・男女別による回答状況には、有意差が認められた。

小学校4年の内容の知識テスト（小学校5年生対象）

(IV-2-4) 思春期における男女の体つきの変化

思春期には体つきの変化が起こります。体つきの変化について正しいものを一つ選んで、その番号に○をつけてください。

1. 男子は丸みがある体つき、女子はがっしりした体つきになる。
2. 男子も女子もがっしりした体つきになる。
3. 男子も女子も丸みのある体つきになる。
4. 男子はがっしりした体つき、女子は丸みがある体つきになる。

								(%)
IV-2-4	n	1	2	3	4	無回答	差 [#]	計
男	1,935	3.0	5.7	2.6	86.3	2.4	*	100.0
女	1,852	1.1	2.3	1.7	93.8	1.1		100.0
全体	3,787	2.1	4.0	2.1	89.9	1.8		100.0

[#]男女差: χ^2 検定, df=4, *p<0.05

- ・正答率は全体で約90%であった。
- ・男女別による回答状況には、有意差が認められた。

中学校1年の内容の知識テスト（高校1年生対象）

(Ⅳ-1-2) 月経のしくみ

「月経は、子宮内膜がはがれて体外に出される現象である。」
＜選択肢＞ 1. 正しい 2. まちがい 3. わからない

						(%)
Ⅳ-1-2	n	正しい	まちがい	わからない	無回答	計
男	1,910	64.6	8.0	26.9	0.5	100.0
女	1,876	81.8	5.5	12.4	0.3	100.0
全体	3,786	73.1	6.8	19.7	0.4	100.0

#男女差：χ²検定，df=3，*p<0.05

- ・ 正答率は全体で約 73%であった。
- ・ 男女別による回答状況には、有意差が認められた。
- ・ 「3. わからない」と回答した者が、全体で約 20%みられた。

中学校3年の内容の知識テスト（高校1年生対象）

（IV-1-13）感染症の予防方法

「感染症を予防する方法には、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、身体の抵抗力を高めることの3つがある。」

<選択肢> 1. 正しい 2. まちがい 3. わからない

							(%)
IV-1-13	n	正しい	まちがい	わからない	無回答	差 [#]	計
男	1,910	81.9	6.3	11.0	0.8	*	100.0
女	1,876	81.2	4.9	13.5	0.4		100.0
全体	3,786	81.5	5.6	12.2	0.6		100.0

[#]男女差：χ²検定，df=3，*p<0.05

- ・ 正答率は全体で約 82%であった。
- ・ 男女別による回答状況には，有意差が認められた。

中学校3年の内容の知識テスト（高校1年生対象）

（IV-2-4）エイズの疾病概念と HIV の感染のしかた

次の各文は、エイズ（後天性免疫不全症候群）を引き起こす HIV（ヒト免疫不全ウイルス）について述べています。1～4のうち、まちがっているものを一つ選んで、その番号の○をチェックしてください。

1. HIV は、感染者の血液や精液、^{ちっ}膣分泌液に含まれている。
2. HIV は、握手やプール、風呂などでは感染しない。
3. HIV 感染者を刺した蚊に刺されると、感染することがある。
4. HIV に感染する危険性が高いのは、性的接触である。

								(%)
IV-2-4	n	1	2	3	4	無回答	差 [#]	計
男	1,910	7.9	35.1	46.8	8.9	1.4	*	100.0
女	1,876	5.5	36.4	49.5	6.9	1.7		100.0
全体	3,786	6.7	35.7	48.1	7.9	1.6		100.0

[#]男女差： χ^2 検定，df=4，*p<0.05

- ・正答率は全体で約 48%であった。
- ・男女別による回答状況には、有意差が認められた。

高校の内容の知識テスト（高校3年生対象）

(IV-4) 新興感染症の流行拡大を防ぐ社会的対策

アジア地域の A 国において、新型のウイルスを原因とする感染症に罹った患者が発生し、感染者が拡大しているという状況を想定してください。その際、わが国での感染症の流行拡大を防ぐための社会的な対策として、正しい組み合わせを、1～6のうちから一つ選び、その番号の○をチェックしてください。

A. ウイルスへの抵抗力を高めるために、栄養や睡眠を十分にとる。
B. 空港や港湾での検疫の体制を強化する。
C. 新型のウイルスの感染経路の正確な情報を調べて、冷静な判断のもとに行動する。
D. 感染症の流行している A 国への渡航に注意喚起をしたり渡航を制限したりする。

1. AとB 2. CとD 3. AとC 4. BとD 5. AとD 6. BとC

(%)									
IV-4	n	1	2	3	4	5	6	無回答	計
男	1,482	8.8	13.2	12.8	47.3	6.3	10.5	1.2	100.0
女	1,376	5.5	12.1	9.9	49.6	7.6	13.8	1.5	100.0
全体	2,858	7.2	12.6	11.4	48.4	6.9	12.1	1.4	100.0

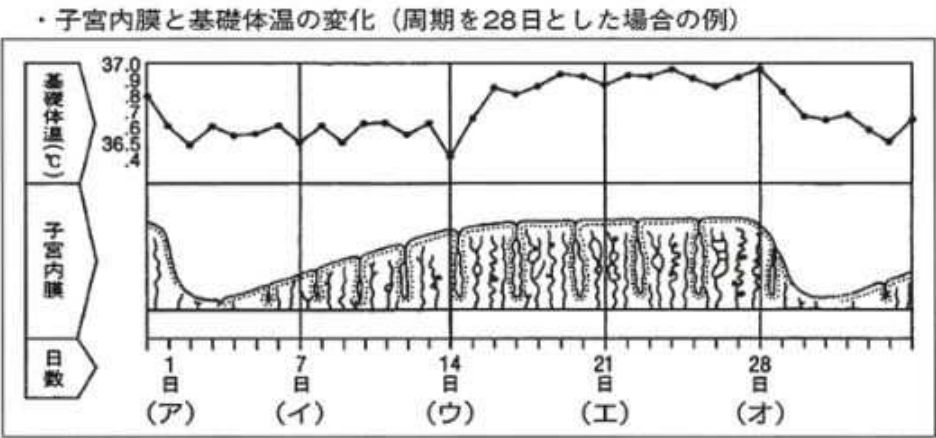
*男女差：χ²検定，df=6，*p<0.05

高校の内容の知識テスト（高校3年生対象）

(IV-10) 女性の性周期（基礎体温・子宮内膜の変化と排卵）

次の図は、女性の性周期を基礎体温と子宮内膜の様子について示したものです。図の中で排卵日と考えられるのはいつですか。1～5のうちから一つ選び、その番号の○をチェックしてください。（性周期を28日とした場合の例である）

- 1. (ア)
- 2. (イ)
- 3. (ウ)
- 4. (エ)
- 5. (オ)



									(%)
IV-10	n	1	2	3	4	5	無回答	差 [#]	計
男	1,482	8.3	11.8	33.1	14.0	31.4	1.4	*	100.0
女	1,376	6.3	9.7	46.3	13.7	22.1	1.9		100.0
全体	2,858	7.3	10.8	39.4	13.9	26.9	1.6		100.0

[#]男女差：χ²検定，df=5，*p<0.05

小学校学習指導要領実施状況調査結果



[TOP](#) > [各部・センター案内](#) > [教育課程研究センター](#) > 学習指導要領実施状況調査

教育課程研究センター

■ 学習指導要領実施状況調査

本調査は、平成29年に告示した学習指導要領の改訂に必要なデータ等を得るために、各教科の目標や内容に照らした児童生徒の学習の実現状況について、ペーパーテスト調査及び質問調査を実施したものです。
(抽出調査)

報告書では、調査結果を分析し成果と課題を示すとともに、指導上の改善点等をまとめております。各学校における教育活動の改善等に、ぜひ御活用ください。

[令和4年度小学校調査](#)

令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査の結果について（体育（保健領域））

1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成することができるよう、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に対応した目標、内容に改善する。
- 自己の健康の保持増進や回復等に関する内容を明確化し、「技能」に関連して心の健康、けがの防止の内容の改善を図るとともに、運動領域との一層の関連を図った内容等について改善する。

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 「知識及び技能」の習得の観点から、**身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容**については、相当数の児童ができていない設問があるが、**日常生活において認識しにくい内容**については、課題があると考えられる設問がある。
- 「思考力、判断力、表現力等」の育成の観点から、**保健の授業で学んだ内容を分類・選択すること**については相当数の児童ができていない設問がある一方、**健康の原則や概念と具体的な生活・行動とを結び付けて考えること**については、課題があると考えられる設問がある。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
 - ・健康・安全に関する基礎的な内容を踏まえ、日常生活において認識しにくい内容について、より理解を深めることができるような指導を重視
 - ・生活経験や学習を通して持っている知識と、保健の授業で新たに学んだことを比較したり、関連付けたりすることができるような指導を重視
 - ・身近な健康情報から課題を発見し、解決する方法を選択したり、その理由を説明したりすることができるような指導を重視

4. 調査問題例（ペーパーテスト 小学校/体育（保健領域））

「健康・安全に関する基礎的な内容」に関する問題例 (別紙1参照)

- 健康によい環境を整えることについての説明から、正しい説明を選択する問題を出題。【通過率 93.9%】

「授業で学んだ内容を分類・選択すること」に関する問題例 (別紙2参照)

- 「自転車転倒事故の発生原因となった、人の行動とまわりの環境」を選択する問題を出題。
 - 人の行動 【通過率 93.1%】
 - まわりの環境 【通過率 90.7%】

「日常生活において認識しにくい内容」に関する問題例 (別紙3参照)

- 「地域の様々な保健活動」を行っている場所を記述する問題を出題。【通過率 40.8%】

「健康の原則や概念と具体的な生活・行動とを結び付けて思考・判断し、表現する力の育成」に関する問題例 (別紙4参照)

- 「心と体の密接な関係」について、心と体の影響の具体例を選択する問題を出題。
 - 「体から心への影響」の具体例を選択する問題（体調がよいと「やる気が出る」を選択した児童）【通過率 59.4%】
 - 「心から体への影響」の具体例を選択する問題（不安があると「おなかが痛くなる」を選択した児童）【通過率 39.1%】

「健康の原則や概念と具体的な生活・行動とを結び付けて思考・判断し、表現する力の育成」に関する問題例

体育（保健領域） 第5学年（1）心の健康

「心と体の密接な関係」について、「体から心への影響」と「心から体への影響」を問う問題

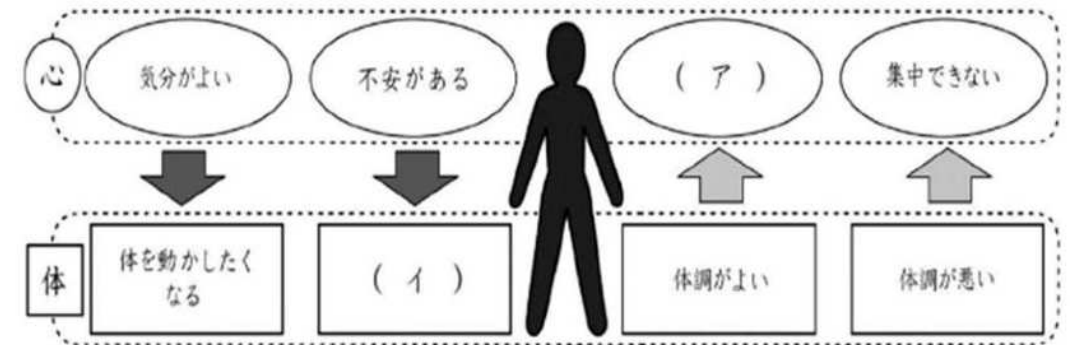
○心と体の密接な関係に関する原則や概念について習得した知識を基に、「体から心への影響」の具体例、「心から体への影響」の具体例を選択する問題

このような問題から、心と体の関係に関する原則や概念と具体的な影響の関連について「思考力、判断力、表現力等」の育成状況を測る。

ア【通過率 59.4%】

イ【通過率 39.1%】

(2) ゆうこさんは、心と体の関係について調べた結果を、下の図のようにまとめました。次の①、②の問題に答えましょう。



① ゆうこさんのまとめた上の図について、(ア)と(イ)にはどんな言葉が入りますか。次の1から4の中からそれぞれ1つずつ選び、その番号を□の中に書きましょう。

- 1 やる気が出る
- 2 体が軽い
- 3 やる気が出ない
- 4 おなかが^{いた}痛くなる

ア 1 (19)

イ 4 (20)

令和5年度 中学校学習指導要領実施状況調査の結果について（保健体育（保健分野））

1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成することができるよう、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に対応した目標、内容に改善する。
- 自他の健康の保持増進や回復等に関する内容を明確化し、「技能」に関連して傷害の防止の内容の改善を図るとともに、体育分野との一層の関連を図った内容等について改善する。

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 「知識及び技能」の習得の観点から、個人生活における健康・安全に関する基礎的な内容については、相当数の生徒ができているものの、日常生活において認識しにくい内容については、課題があると考えられる設問がある。
- 「思考力、判断力、表現力等」の育成の観点から、保健の授業で学んだ内容に基づき適切な行動を選択することについては相当数の生徒ができているものの、健康の原則や概念と具体的な生活行動とを結び付けて考えることについては、誤答にも留意する必要があると考えられる。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
 - ・健康・安全に関する基礎的な内容を踏まえ、日常生活において認識しにくい内容について、より理解を深めることができるような指導を重視。
 - ・生活経験を通してもっている知識について、科学的なデータや根拠に基づき、概念的な理解を深めることができるような指導を重視。
 - ・健康の原則や概念と具体的な生活行動とを結び付けて考えることができるような指導を重視。

4. 調査問題例（ペーパーテスト調査）

「健康・安全に関する基礎的な内容」に関する問題例

（別紙1・2参照）

- 予防接種に関する説明の中から、正しいものを選択する問題を出題
【通過率 91.7%】
- 緊急地震速報に関する説明の中から、正しいものを選択する問題を出題
【通過率 83.0%】

「保健の授業で学んだ内容に基づき適切な行動を選択すること」に関する問題例

（別紙3参照）

- 感染症の予防に関する事例から、適切な行動を選択する問題を出題
【通過率 93.3%】

「日常生活において認識しにくい内容」に関する問題例

（別紙4参照）

- 心肺蘇生法の胸骨圧迫における、具体的な実施方法を選択する問題を出題
 圧迫する深さ【通過率 49.7%】
 圧迫のテンポ【通過率 31.6%】

一定程度の生徒はできているが、誤答にも留意する必要がある問題例

（別紙5・6参照）

- がんの特徴について正しいものを選択する問題を出題
 「異常な細胞が増殖する病気」を選択【通過率 62.5%】
 ただし誤答として、「5人に1人くらいがかかる病気」を29.4%が選択
- 薬を飲む量に関する資料を読み取り、過剰な使用による健康課題について誤っているものを選択する問題を出題
 「主作用が適度にあらわれる」を選択【通過率 60.8%】
 ただし誤答として、「生命に危険がある」を14.7%、「過度の主作用」を12.4%、「副作用が現れやすい」を11.9%がそれぞれ選択

「保健の授業で学んだ内容に基づき適切な行動を選択すること」に関する問題例

保健体育科（保健分野） 第3学年（1）健康な生活と疾病の予防 感染症の予防に関する事例から、適切な行動を選択する問題

このような問題から、感染症の予防に関する知識を活用する「思考力、判断力、表現力等」の育成状況を測る。

(3) 次の文章を読んで、下の問題に答えなさい

会社員のAさんは起床して体温を測ると37.7度ありました。Aさんの勤務先では、先週からインフルエンザに感染して休む人が増えていました。

Aさんは会社を休み、朝食後に布団に入って安静に過ごしました。昼食後に体温が37.2度まで下がり、病院で診察を受けるかどうかで迷いました。しかし、以前、風邪をひいた時に普段通りの生活をしていたら、自然に治ったことを思い出し、午後自宅でも過ごすことにしました。

夕方に同じ会社の友人がお見舞いに来たので、一緒に同じ袋に入ったお菓子を食べながら、おしゃべりをしました。その後、夕食をとり、いつもより早めの時間に就寝しました。

翌日、Aさんの体温は38.8度まで上がり、会社の友人も発熱してしまいました。

〈問題〉

このような状況で、Aさんのとるべきであった行動として、適切なものを次の1から5の中から2つ選びなさい。

- 1 マスクを着けて会社に出勤する
- 2 病院で医師の診察を受ける
- 3 朝食、昼食、夕食を控える
- 4 友人とは直接会わずに、電話やメールなどで連絡を取るようにする
- 5 午後から屋外で軽い運動をして、体調を整える

2

4

【通過率 93.3%】

暫定版

令和6年度 高等学校学習指導要領実施状況調査の結果について（保健体育科 保健）

1. 平成30年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成することができるよう、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に対応した目標、内容に改善する。
- 個人及び社会生活における健康課題の解決することを重視する観点から、現代的な健康課題の解決に関わる内容、「技能」に関連して応急手当の内容を充実し、体育との一層の関連を図った内容等について改善する。

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 「知識及び技能」の習得の観点から、個人及び社会生活における健康・安全に関する基礎的な内容の大半は、相当数の生徒ができているものの、社会生活において生徒が認識しにくい内容については、課題があると考えられる設問がある。
- 「思考力、判断力、表現力等」の育成の観点から、保健の授業で学んだ内容に基づき適切な行動や社会的な対策などを分類・選択することについては、相当数の生徒ができているものの、健康の原則や概念と具体的な行動を結び付けて考えることについては、課題があると考えられる設問がある。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
 - ・健康・安全に関する基礎的な内容を踏まえ、社会生活において生徒が認識しにくい内容について、既存の知識と科学的なデータや根拠、具体的な事例とを結び付けて考えることができるような指導を重視
 - ・健康の原則や概念と具体的な行動を往還させ、思考・判断することができるような指導を重視

4. 調査問題例（ペーパーテスト調査）

「健康・安全に関する総合的な内容のうち基礎的な内容」に関する問題例

- 精神疾患に関する説明の中から、正しいものを選択する問題を出題。
【通過率 78.8%】（別紙1参照）
- ヘルスリテラシーの概念に基づいた健康情報の収集方法に関する説明の中から、誤った情報を得る可能性が高いものを選択する問題を出題。
【通過率 87.3%】（別紙2参照）

「保健の授業で学んだ内容に基づき適切な行動や社会的な対策などを分類・選択すること」に関する問題例

- 妊娠・出産の時期と健康課題について、適切な内容を考えて選択する問題を出題。
【通過率 83.9%】（別紙3参照）

「社会生活において生徒が認識しにくい内容」に関する問題例

- 日本人のがんの原因として最も割合の高いものを選択する問題を出題。
女性のがんの原因【通過率 17.6%】（別紙4参照）
- 我が国の国民皆保険制度についての説明のうち、適切でないものを選択する問題を出題。
【通過率 43.9%】（別紙5参照）

「健康の原則や概念と具体的な行動を結び付けて考えること」に関する問題例

- 感染症予防の原則と具体的な行動を結び付けて分類・選択する問題を出題。
 - ・感受性者対策としてワクチン接種を選択 【通過率 33.1%】
 - ・感染源対策として嘔吐物の次亜塩素酸ナトリウムを使った衛生的処理を選択 【通過率 44.8%】
 - ・感染源対策として感染者の排泄物の滅菌処理を選択 【通過率 40.8%】（別紙6参照）
- 応急手当の原則を踏まえて、行うべき具体的な行動を考えて選択する問題を出題。
【通過率 33.9%】（別紙7参照）

「保健の授業で学んだ内容に基づき適切な行動や社会的な対策などを分類・選択すること」に関する問題例

保健体育科（保健）入学年次及びその次の年次

(3) 生涯を通じる健康（ア）生涯の各段階における健康

妊娠・出産の時期と健康課題について、適切な内容を考えて選択する問題

このような問題から、妊娠・出産の時期と健康課題に関する知識を活用する「思考力、判断力、表現力等」の育成状況を測る。

8 生涯の各段階における健康について、あとの(1)と(2)の問題に答えなさい。

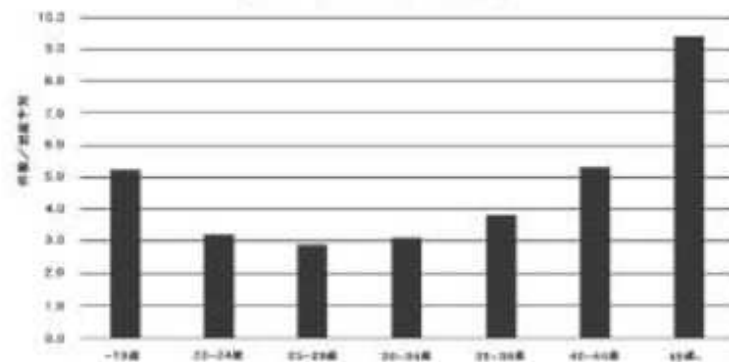
次の会話文は、ある市の夫婦を対象とした教室に参加した夫妻の夫婦（夫 38 歳、妻 35 歳）の会話です。

夫：話を聞いて、ますます子供がはしくなったね。

妻：うん。いろいろ勉強になったわ。私たちが、(イ) 家族計画を立てないとかね。

夫：それだけではないよ。この間もらってきた資料（下図）を見てごらん。

年齢（5 歳階級）別にみた周産期死亡率（出産千対）
（2017 年～2021 年の平均値）



* 周産期死亡率は、1 年間の周産期死亡数（妊娠満 22 週以後の死産数＋早期新生児死亡数（生後 1 週間未満の死亡数））を 1 年間の出産数＋妊娠満 22 週以後の死産数で割ったもの（出産千対）である。

（厚生労働省「人口動態統計」をもとに作成）

妻：年齢別にみた周産期死亡率の図ね。周産期死亡率は、1 年間の出産 1,000 に対する周産期死亡（妊娠満 22 週以後の死産と早期新生児死亡の合計）の比率のことを言うのね。母親の年齢が、生まれてくる子供の命に関わっているということね。

夫：他に気が付くことはないかな。そういえば、母親の第 1 子の出産年齢が 30 歳を超えたと言っていたね。

妻：わかった。（イ）を考えておかないとね。

(2) 図と会話文を参考に、(イ)に入る最も適切なものを、次の 1 から 4 の中から 1 つ選びなさい。(41)

- 1 第 1 子を産む年齢は、できるだけ高いほうが良いということ
- 2 若い年齢と高い年齢では、出産にともなうリスクが高くなるということ
- 3 おおむね 30 歳台後半以後では、妊娠しやすくなるということ
- 4 周産期死亡のリスクと年齢には関係がないということ

2

【通過率 83.9%】

「健康の原則や概念と具体的な行動を結び付けて考えること」に関する問題例

保健体育科（保健） 入学年次及びその次の年次

（１）現代社会と健康 （イ）現代の感染症とその予防

感染症予防の原則と具体的な行動を結び付けて分類・選択する問題

このような問題から、予防原則と具体的な行動を結び付けて考える「思考力、判断力、表現力等」の育成状況を測る。

(3) 感染症の予防方法には、(a)感染源対策、(b)感染経路対策、(c)感受性者対策の3つがあります。次の1から6の対策が(a)から(c)のどれにあてはまるのか選びなさい。

(7) (8) (9) (10) (11) (12)

- 1 多くの人の集まる場所でマスクを着用する
- 2 ワクチンを接種する
- 3 飲食の前に手洗いをする
- 4 嘔吐物を、次亜塩素酸ナトリウムを使って衛生的に処理する
- 5 適切な運動、食事、休養・睡眠を心がけ、規則正しい生活を送る
- 6 感染者の排泄物を滅菌処理する

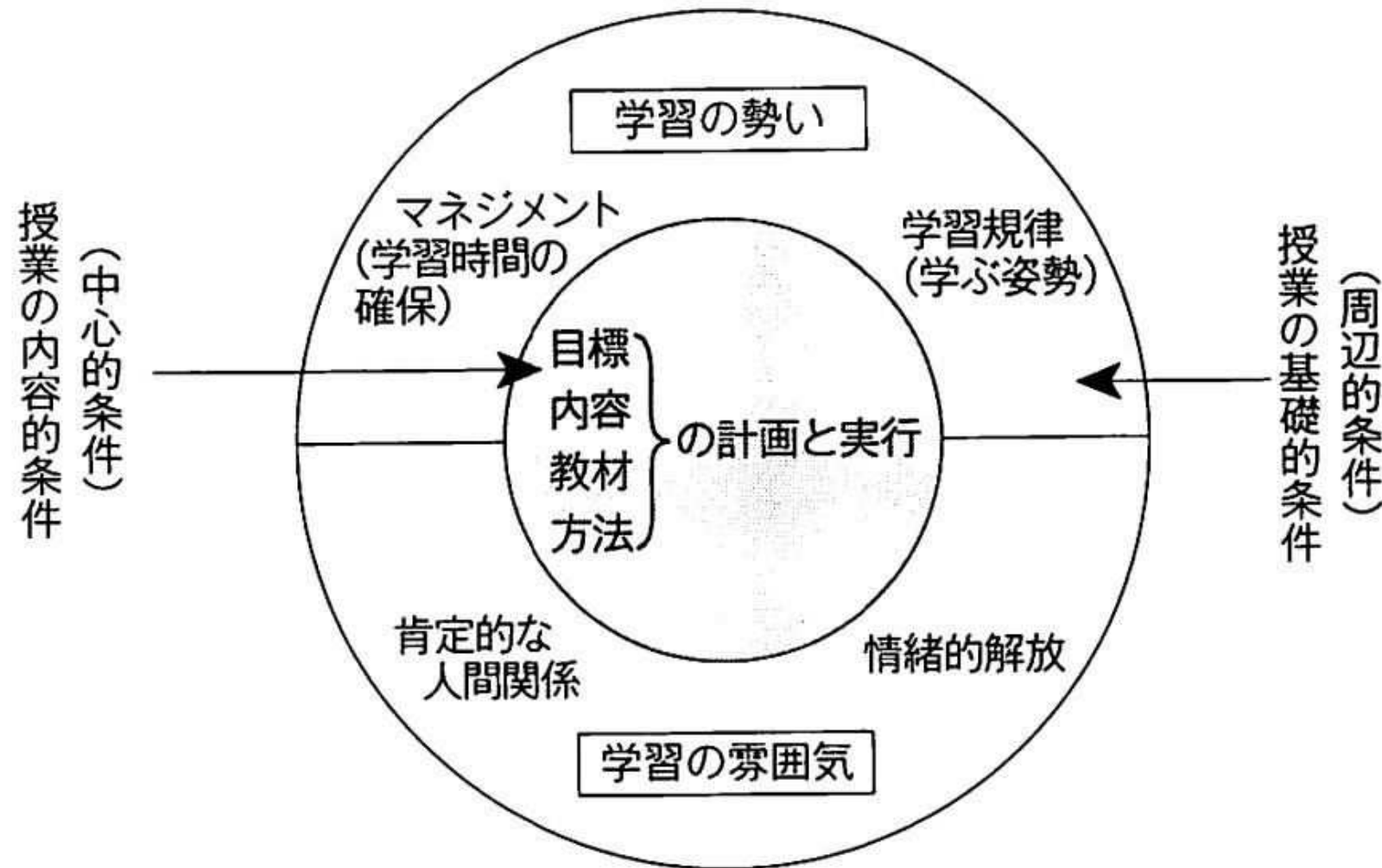
選択肢	正答	通過率
1	b	66.1
2	c	33.1
3	b	59.2
4	a	44.8
5	c	50.1
6	a	40.8

感染源対策と感受性対策についての原則と具体的な行動を結び付けて考えることに課題がある。

よい体育の授業を成立させるための条件

中心的条件

周辺的条件



よくない保健の授業とは？

雨降り 保健

**晴れたら体育、
雨が降ったときだけ保健**

特徴は、教員も生徒とともに、本当はやりたかった体育の実技授業が雨のためできなくなり、止むを得ず仕方なしに保健の授業をする

暗記 保健

**教員も生徒も教えたつもり
学んだつもりになってしまう**

特徴は、「教科書を読んでアンダーラインを引くだけ」「暗記のテストのためだけ」「プリントを配って穴埋めするだけ」の保健の授業をする

認識変容の3つの型

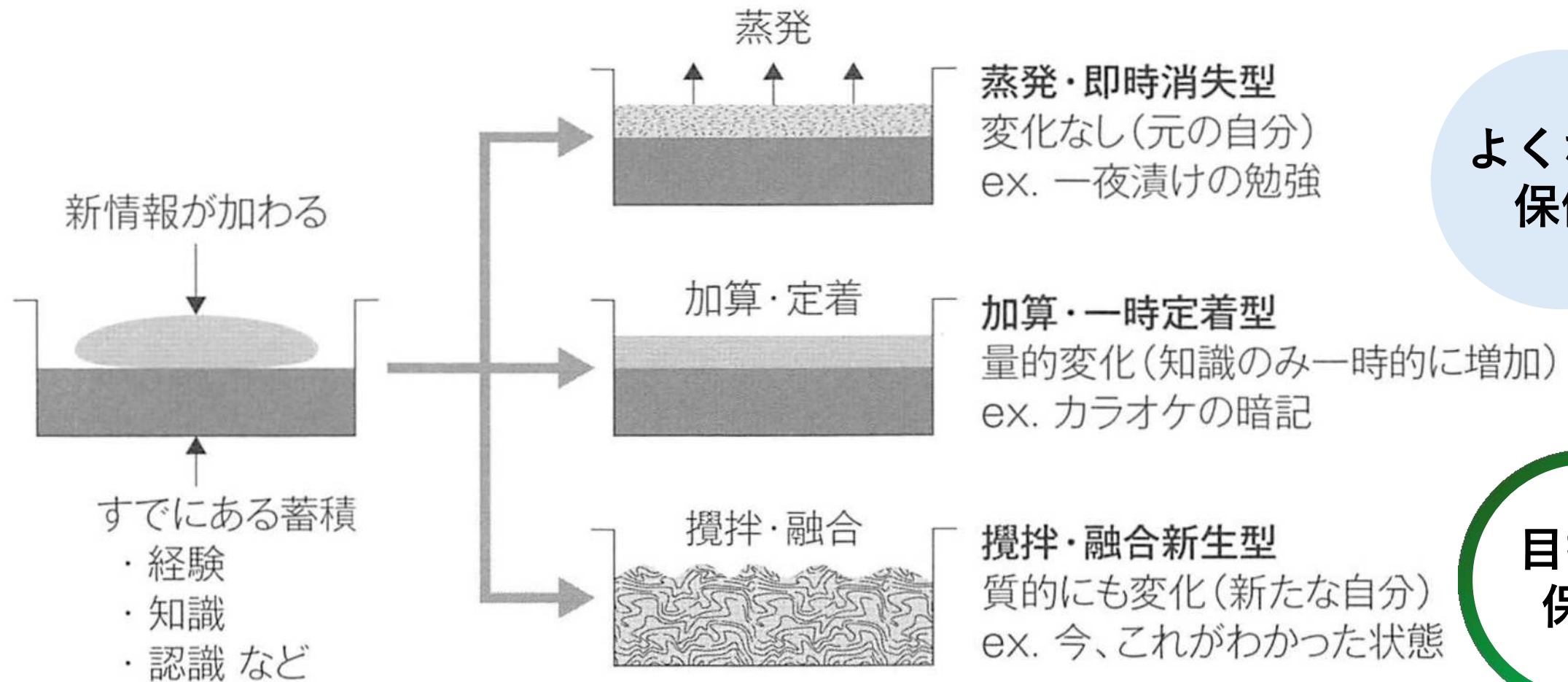


図2 認識変容の3つの型